



学校便り

だしる

自主・向学・協調・練磨

錦江町立田代中学校

令和5年5月29日発行

合い言葉 **やればできる**

修学旅行で学んだこと

校長 土岐 邦寿

久しぶりに充実した修学旅行だったというのが、今回の一番の印象です。田代中学校の2年生と共に長崎まで行ってきました。コロナの制限がない修学旅行は4年ぶりです。1学期の中でも一番旅行する学校数が一番多い週とのことで、駐車場もバス、バス、バス・・・、長崎平和公園もグラバー園も人、人、人・・・という感じでした。外国からの観光客も結構いました。

一日目のハウステンボス、三日目の湯飲み絵付け体験・佐賀宇宙科学館もよかったです。一番はやはり長崎での平和学習でしょう。田代中の生徒もしっかり予習してきていましたが、語り部の方と被爆地を回る平和学習は心に突き刺さるものがありました。3歳の時に被爆した田中安次郎さんは、現在81歳ながらかくしゃくしており、約2キロの行程をスパスパ歩く姿にびっくりしました。「一つしかない命なのだから、ほかの人の分まで長生きして、原爆の恐ろしさを多くの若者に伝えていきたい。」「原爆の恐ろしさや、キリスト教迫害の話だけすると重苦しくなるので、ユーモアたっぷりの話も織り交ぜながら話しするように心がけている。」と元気よく話してくださる姿に人生の先輩の偉大さを感じました。生徒も真剣に耳を傾け、質問をしていました。多くの修学旅行生が長崎に集まっていたのですが、すごくタイミングよく、人がいなくなったときに会場に入ることができ、山里小学校の原爆資料館と防空壕、如己堂、浦上天主堂などじっくりと回ることができました。一つひとつの施設を丁寧に説明してくださいました。移動中に出てくる裏話や地域ならではの情報に生徒たちは食いついていました。詳しい中身は子供たちに聞いてみてください。田中さんが心配していることは、自分より年上で原爆を体験した語り部さんがどんどん亡くなっているそうで、数年後にはいなくなるのではないかと話されていました。今回聞くことができた原爆の話の胸に刻んで、「絶対に戦争はしてはいけない」、「二度と核爆弾を使ってはならない」と、世界に向けて発信できる田代中学生になったのではないかと思います。

2年生は修学旅行でしたが、1年生は宿泊学習、3年生は職場体験学習でした。それぞれ日頃の学校生活では学習できない貴重な体験ができたのではないかと思います。一回りも二回りも成長した田代中学生に大いに期待したいと思います。



1日目ハウステンボス



2日目 大浦天主堂



ホテルはロボットがお出迎え